

花戸さん「やぶ医者大賞」

「やぶ医者」は下手な医者ではなく、ある名医が現在の兵庫県養父市にひっそりと暮らしたことに由来する――。そんな伝えに基づき、「名医の郷」を掲げる同市が創設した「やぶ医者大賞」。第3回の今年、東近江市にある永源寺診療所の花戸貴司さん(46)が県内から初めて選ばれた。

兵庫・養父市創設

花戸医師は米原市出身で、2000年に永源寺地域の診療所に赴任。「地域まるごとケア」を掲げ、介護の専門家や薬剤師、ご近所の住民と連携した在宅医療を進める。

地域密着の活動 評価

訪問診療に積極的に取り組み、現在は約80人の患者を往診。永源寺地域では在宅患者のほぼ半数が自宅で看取られるようになっていくという。朝日新聞滋賀版で診療所での日々をつづるコラム「永源寺日記」を執筆している。

やぶ医者大賞はへき地医療への貢献にスポットを当てたもの。今回は医師会などの推薦により滋賀、福井、徳島、岡山の4県の5人が応募し、2人が選ばれた。花戸医師は選考理由で「医療だけでなく、少年野球のチームドクターなど地域密着の活動をしている」などと評価された。

花戸医師は「受賞を励みに、さらに地域医療の充実に取り組んでいきたい」と話す。薬剤師と連携した服薬の訪問指導などが評価されて受賞した徳島県美馬市の藤原真治・国民健康保険木屋平診療所長とともに、11月26日に養父市で表彰される。

(青田貴光)



「やぶ医者大賞」に決まった花戸貴司医師。積極的な訪問診療などが評価された